



雨、あめ

ピーター・スピアー 【著】

評論社 1984年 1470円

32ページ 27×26cm

アメリカの中流階級の典型的な家庭に育っている、2人の子どもの雨の日の様子を、絵の力のみで展開し、物語っている絵本です。2人が広い庭で水遊びをしていると雨が降り始めました。でも2人はお母さんに大きな傘を用意してもらって散歩に出かけます。雨降りの庭には楽しい子どもの遊びがいっぱいです。2ページにわたる水たまりや土砂降りの雨と突風の描写は圧巻です。作者の観察眼と緻密な筆致によるこの絵本は、物質的にも精神的にも安定しているこの家庭の物語にぴったり合っていて、読み手の心も豊かにしてくれます。世界中の全ての子どもたちがこの絵本の主人公の2人のように、しあわせに育って欲しいと願わずにはいられません。



ありこのおつかい

石井 桃子 さく 中川 宗弥 え

福音館書店 1968年 1260円

40ページ 28×22cm

ある日ありのありこは、お母さんからおつかいを頼まれます。途中してはいけないと言われた道草をしたありこは、かまきりと、かまきりはむくどりと、むくどりはやまねこと、やまねこはくまとつぎつぎに大喧嘩になりのみ込まれてしまいます。けれどもくまのお母さんのおかげで、みんなつぎつぎに口から飛び出て、ご馳走を分けてもらい仲直りします。心から謝ったありこは、くまのお母さんの頭にのせてもらい無事におつかいを終えます。子どもは、小さくて好奇心が強いので時に失敗もしますが、それをきちんと受け止めてくれる大人がいてこそ成長できるという考えが、余白の白地に淡い配色の優しく親しみのある絵にこめられています。

